

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

## 事業名 美濃和紙ブランド価値向上戦略推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内 3095)

E-mail：[c11355@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11355@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 10,000千円 (前年度予算額：24,231千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	24,231	9,399	0	0	0	0	0	0	14,832
要求額	10,000	4,104	0	0	0	0	0	0	5,896
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県と美濃市は、2014年のユネスコ無形文化遺産登録を機に、美濃和紙産地活性化への取組みを一層強化するため、地元市や産地関係者、専門家からなる「美濃和紙活性化会議」を2015年6月に設置し、その議論、意見交換の中で、縮小する需要の開拓・拡大が産地最大の課題であることを改めて確認した。

同年、美濃和紙事業者と県、美濃市、外部専門家が一体となって需要拡大に向け取り組む「美濃和紙ブランド価値向上研究会」を設置。新たな美濃和紙ブランドの決定、国内外へのアピール等、更なる販路拡大につなげる取組みを進めている。

新型コロナウイルスの感染拡大により消費が減退する中、2021年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの入賞者に美濃手すき和紙の表彰状が授与されることを絶好の機会ととらえ、美濃和紙のプロモーションと販路拡大に集中的に取り組む必要がある。

## (2) 事業内容

- ・研究会を継続的に開催するとともに、美濃和紙の需要拡大に向け、バイヤーの招聘や地元イベント等を活用したPR、テストマーケティング、ユーザーのニーズを掴んだ商品開発を実施する。

### ①研究会開催

月1回程度開催し、今後の方向性について意見交換を行う。

### ②プロモーション、販路拡大（テストマーケティング）

美濃和紙の販路拡大に向けて、地元での商談会や地元イベントを活用したPR、新たな美濃和紙ブランド製品のテストマーケティング（広報含む）を行う。

《国内》

#### ○地元での商談会（バイヤー招聘）・PR

- ・国内の主要なバイヤー（和紙取り扱い店舗等）を美濃和紙の産地である美濃市に招聘し、商談会を実施。
- ・美濃和紙あかりアート展など地元でのイベントを利用した新たな美濃和紙ブランドのPRを実施。

#### ○和紙専門店等におけるテストマーケティング

- ・国内の主要な和紙専門店等において、新たな美濃和紙ブランド製品（本美濃紙、手すき和紙、機械すき和紙）を中心としたテストマーケティングを実施。

《海外》

#### ○PR展示

- ・知事トップセールス等に合わせ、他の県産品との一体的なPRを実施。

### ③新商品開発・ブラッシュアップ

- ・新たな美濃和紙ブランドを美濃和紙のイメージリーダーとして売り込むため、新たな商品開発、既存商品のブラッシュアップを行う。

## (3) 県負担・補助率の考え方

- ・地方創生推進交付金を活用
- ・国 1/2、県 1/2

## (4) 類似事業の有無

- ・なし

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	360	委員謝金
旅費	1,090	費用弁償、業務旅費
需用費	194	消耗品
役務費	111	通信運搬費、サンプル等発送費
会議費	36	水代
委託料	8,209	商談会開催経費等
合計	10,000	

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④ 「ぎふブランド」づくり

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・美濃和紙ブランドを使用できる「美濃和紙ブランド協同組合」加盟事業者の売上高合計 平成 28 年度対比 2 割増

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前年度末時点)	目標	達成率
「美濃和紙ブランド協同組合」加盟事業者の売上高合計	82.7 億円 (H28)	81.5 億 (H29)	80 億 (H30)	80.5 億円 (R1)	99.2 億円 (R2)	% 81.1

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 美濃和紙ブランド価値向上研究会設置（平成 27 年 11 月）
- 美濃和紙ブランド価値向上研究会開催（平成 28 年 4 月～）
- ブランド認定基準を策定するとともに、魅力や可能性を伝えるためブランドブックを制作、国内外 5 箇所でお披露目を実施（平成 29 年 3 月）
- 国内外展示会等出展（平成 28 年～）※R2 は中止
- 既存商品のブラッシュアップ・新商品の開発（平成 28 年～）

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

外部専門家のコーディネートによる研究会での議論を通じて、美濃和紙の需要拡大に向けた、事業者の意識改革が図られるとともに、ブランド価値向上のための方向性を明確化し、産地全体で取り組んでいくことで、美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大が図られる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)  ○	本美濃紙を含む「和紙：日本の手漉和紙技術」のユネスコ無形文化遺産への登録、美濃手すき和紙の東京オリンピック・パラリンピック表彰状への採用により、低迷する産地活性化の千載一遇のチャンスが訪れているが、事業者の大半が中小零細であり、財政基盤がぜい弱であることから、美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大への支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)  —	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)  ○	外部専門家のコーディネートによる研究会での議論を通じて、美濃和紙の需要拡大に向けた、事業者の意識改革が図られるとともに、ブランド価値向上のための方向性を明確化し、産地全体で取り組んでいくことで、美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大が図られる。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 美濃和紙を取り巻く5つの課題（「需要の拡大」「ブランド力向上」「後継者の育成」「原材料の確保」「地域の魅力向上」）のうち、最重要課題である「需要の拡大」に有効な戦略の着実な実行が必要である。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 研究会での議論、検討内容を踏まえ、より効果的に美濃和紙の魅力PRし、更なる需要拡大に係る取組みの充実を図っていく。</li> </ul>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	